【授業科目】生理機能検査学実習Ⅱ　Practice of Clinical Physiology Ⅱ

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
榎本 喜彦、金田 泰代	2 年次 後 期	必修	1	30	実習	あり	巻末 掲載	可

授業概要 （内容と進め方） 及び課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／生理機能検査学実習Ⅱでは脳波・筋電図の測定法を教授する。生理機能検査学Ⅱ,Ⅲの講義よって得た知識をもとに、各種検査手法の習熟および得られた結果を評価できるよう講義する。生理機能検査においては、患者対応が不可欠である。特に診断に影響を及ぼすアーチファクトの多くが患者由来であることを理解し、患者対応への意識および接遇の重要性を教授する。データ解析にはグループディスカッションを取り入れ、コミュニケーション能力を向上させる。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／レポートにコメントをつけて返却する。
実務経験に関する 授業内容	臨床検査技師として臨床経験を持つ教員が、検査に必要な手技および知識を習得するための実践的な実習を行う。得られた検査結果を判読し検査結果の評価方法も行う。
授業の位置づけ	本学のディプローマポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が 到達すべき目標）	①脳波の一連の測定法が実施できる。 ②筋電図、誘発筋電図、神経伝導速度の測定が実施できる。 ③サーモグラフィー測定を実施できる。 ④平衡感覚検査、聴力検査を実施できる。 ⑤味覚、嗅覚検査を実施できる。
時間外学習に必要な 学修内容および 学習上の助言	第1回～第15回事前学習：事前に実習項目について予習を行っておく／範囲内の実習書を熟読しておく／分からない測定法は調べておく（各30分） 第1回～第15回事後学習：実習内容で不明な点は、実習中もしくはオフィスアワーを利用して質問するなどして明確にすること（30分）／実習内容に沿ったレポートの作成（180分） ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位15回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位15回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。 詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第 1 回　脳波の基礎 第 2 回　脳波測定法について、電極の配置 第 3 回　脳波測定法について、電極の配置 第 4 回　誘発電位、筋電図の基礎 第 5 回　誘発電位、筋電図の基礎 第 6 回　運動神経伝達速度の測定法 第 7 回　運動神経伝達速度の測定法 第 8 回　感覚神経伝導速度の測定法 第 9 回　感覚神経伝導速度の測定法 第 10 回　神経伝達速度の実際 第 11 回　神経伝達速度の実際 第 12 回　平衡機能検査 第 13 回　平衡機能検査 第 14 回　嗅覚検査、味覚検査 第 15 回　嗅覚検査、味覚検査 榎本、金田
評価方法 評価基準	成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 単元ごとのレポート 40％ 実技試験（接遇を含む）30%　定期試験 30%
教科書	実習書をPDF化したファイルと、プリントを配付します。
参考書等	最新臨床検査学講座「生理機能検査学」 東條尚子、川良徳弘著（医歯薬出版株式会社）
学生への メッセージ	生理機能検査の手技・技術だけではなく、測定結果に重要な因子となる接遇、アーチファクトについても習得して欲しい。